

令和3年度水稻栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安全安心で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

JA東とくしま農業振興対策部

【早期】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月																	
生育ステージ <small>コシヒカリ 4/10植え 付け事例</small>	穂ばらみ期 (出穂7日前)	出穂 7月9日頃 乳熟期 登熟期 収穫 8月14日頃 斑点米カメムシ集中被害期 (出穂直後～乳熟期後期)	収穫後の 耕うん	2回目耕うん (深耕)	3回目耕うん (土壌改良剤投入の時期)																			
水管理	間断灌水 ※この時期は水をきらさないこと 		管理のポイント	収穫の適期																				
	収穫前 穂そろい期以降も、間断灌水とする。可能な限り、夕方から入水し、温まった水温を下げる。落水時期は収穫作業にさしつかえない限り遅らせる。※登熟期の水分不足は未熟粒の増加や収量、品質の低下を招く。			◎収穫適期 (1) 粃の80%が黄化したときが適期。 (2) 穂揃いに日数を要した(分けつが長期間つづいた)圃場は、特に適期が判断しにくいので注意する。1株中には、早く出穂したものと遅く出穂したものが混在するので、早い出穂を判断基準にして収穫する。 ※図1の点線内が黄色になった頃が適期収穫時期です。圃場内の平均的な穂を10本程度確認する。(または、一次枝梗の先端1/4が白色化した場合 点線より先) ※各圃場の穂揃いした時期を圃場ごとに記録する。																				
備考	【参考】品種特性表(天候によりかわることもある)		雑草防除																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>田植期</th> <th>幼穂形成期</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コシヒカリ</td> <td>4月10日</td> <td>6月15日</td> <td>7月9日</td> <td>8月14日</td> </tr> <tr> <td>4月20日</td> <td>6月19日</td> <td>7月13日</td> <td>8月18日</td> </tr> <tr> <td>5月1日</td> <td>6月24日</td> <td>7月18日</td> <td>8月23日</td> </tr> </tbody> </table>	品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日	※乾燥機・粃すり機の清掃及び整備点検(ネズミの糞・ゴミ等の混入防止) ※適正水分は14～14.5% ※適正水分確保と肌ずれ防止のため、余熱をとってから粃摺りを行う。 ※紙袋の油汚れに注意。		キシウスズメノヒエ(よばい草)対策 稲刈り後にラウンドアップマックスロード50倍またはデゾレートA水溶剤等を発生している場所に散布する。(周囲の稲刈り作業終了後)		ジャンボタニシ防除(密度高い場合) 稲刈り後に、3～4cmに湛水し、1～4日後全面に石灰窒素20kg/10a散布する(散布時水深3～4cm)。そして3～4日放置し、自然落水する。(水温15℃以上の時期に実施する。) ※魚介類に影響があるため、排水路や周辺の水田への流亡は防ぐ。
品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期																				
コシヒカリ	4月10日	6月15日	7月9日	8月14日																				
	4月20日	6月19日	7月13日	8月18日																				
	5月1日	6月24日	7月18日	8月23日																				
		◎越冬するジャンボタニシを減らす 田面を乾かし、厳冬期(1～2月)に浅め(5cm程度)に細かく耕起。越冬中の貝を寒気にさらし、貝を破壊して成貝を減らす。複数回行うと効果が高い。																						

図1. 収穫適期の粃の黄化状況

● 黄色
● 薄緑色
○ 緑色